

令和 2 年 度

事業報告

社会福祉法人あまくさ福社会

○地域生活支援センターグリーン

- ・ 指定特定相談支援事業
- ・ 生計困難者レスキュー事業
- ・ 自立訓練(生活訓練)事業
- ・ 生活介護事業(共生型通所介護)

○就労サポートセンターぴ〜す

- ・ 就労継続支援B型事業

○グリーントポス

- ・ 介護サービス包括型共同生活援助

令和2年度 指定特定相談支援事業報告

【1】概況

指定特定相談支援事業者として相談及び作成などの支援が必要と認められる場合に、障害者(児)の自立した生活を支え、障害者(児)の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けて、ケアマネジメントによりきめ細かく支援出来るものをサービス等利用計画にて作成し、支給決定後のサービス等利用計画の見直し(モニタリング)を行っている。

同時に、必要に応じて医療関係者、学校関係者、各事業所、地域の保健師や保健所等関係機関や専門機関と連携し、障がい児者の意思や人格を尊重し地域で生活していくための相談・支援も行っている。

【2】本年度重点的に取り組んだ目標・計画

目標・計画	報告
1. 障がい当事者の自分らしく暮らしたいという思いに寄り添い、共に歩み実現していく	1. 個別支援に力を入れ困難を単純化したり和らげる「エコロジカルアプローチ」とパワーレスな状態の方に横で生きる力を回復させる「エンパワメントアプローチ」を実施した。
2. 障がい者ひとりひとりのニーズに応じて計画作成を行い、本人やご家族が安心して生活できる支援を提供する	2. 障がい者各々の意思の確認と尊重を基本とし、それぞれが生き生きと暮らすための計画相談の提供を行った。
3. 障害者の権利擁護の視点に立ち、本人が抱える課題の解決や適宜なサービス利用に向けて関係機関と連携・情報交換しながら必要時に必要な支援を提供する	3. 本人、家族、関係機関と共に適宜ケア会議を開催しながら課題の解決やより良い支援に向けての協議を重ねた。また、状況に応じ本人さんが必要とする福祉サービスの見直しを行い、体調の変化に応じては障害支援区分の認定の再調査の手配等を積極的に行った。

【3】相談支援・障害種別利用者契約状況

(1) 計画相談 月別実施状況

※相談件数についてはのべ人数

	月	モニタリング件数	計画作成件数	※相談件数	合計
	令和2年度月別利用者状況	4月	14	3	98
5月		15	8	87	110
6月		16	7	77	100
7月		14	7	91	112
8月		12	6	1	19
9月		17	7	86	110
10月		12	4	102	118
11月		12	5	98	115
12月		19	4	85	108
1月		14	2	93	109
2月		11	4	93	108
3月		16	8	104	128
合計		172	65	1,015	1,252

(3) 支援内容内訳 ※相談件数の内訳

支援内容	件数	支援内容	件数
福祉サービスの利用に関する支援	201	家計・経済に関する支援	45
社会資源の活用に関する支援	130	生活技術に関する支援	11
障がいや病状の理解に関する支援	121	就労に関する支援	41
健康・医療に関する支援	69	社会参加に関する支援	8
不安の解消・情緒安定に関する支援	159	余暇活動に関する支援	5
保育・教育に関する支援	8	権利擁護に関する支援	4
家族関係・人間関係に関する支援	213	その他福祉に関する支援	0
		合計	1,015

(4) 障害別利用契約者数の前年対比

令和元年度 利用契約者数				令和2年度 利用契約者数			
身体障害者	3名	難病対象者	1名	身体障害者	3名	難病対象者	1名
知的障害者	5名	(男性利用者)	36名	知的障害者	7名	(男性利用者)	39名
発達障害者	2名	(女性利用者)	34名	発達障害者	4名	(女性利用者)	40名
精神障害者	59名	合計利用者	70名	精神障害者	64名	合計利用者	79名

令和元年度 サービス種別数				令和2年度 サービス種別数			
居宅介護	21名	同行援護	1名	居宅介護	23名	同行援護	1名
生活介護	15名	自立訓練	12名	生活介護	15名	自立訓練	11名
通所介護	5名	就労継続支援A型	8名	通所介護	5名	就労継続支援A型	4名
共同生活援助	13名	就労継続支援B型	22名	共同生活援助	15名	就労継続支援B型	26名

天草市における障害福祉の現状としては障がい手帳保持者の高齢化率は年々増加し65歳以上は全体で63.8%となっている。65歳以上のサービス利用については介護保険サービス化優先となっているため介護保険担当課(地域包括支援センターとの連携)は欠かせないところである。また、現在障がい者手帳保持者で最も人数が多いのは80歳代でサービス利用が最も多い年齢層は60歳代と高齢化が進んでいる。当法人においても生活介護及びグループホーム利用者の高齢化がみられ共生型サービス利用も増加している。

国においては、2020(令和2)年度より、地域を基盤としたソーシャルワークを実践できる相談支援専門員を養成するため、現行のカリキュラムを見直し、新しい相談支援従事者養成カリキュラムを実施している。また、相談支援専門員のキャリアパスを明確にした主任相談支援専門員研修を体系として位置づけている。これら障害福祉の現状及び国の施策を受け、相談支援が、障害のある人の意思決定を尊重し、地域でその人らしく暮らすために欠かせないものであることを確認しながら、障害がある人もない人も、誰も排除せず、ともに生きていくことができる社会、すなわちソーシャルインクルージョンを進めていくために、資源をコーディネートしていく相談支援専門員を目指していきたいと思う。

令和2年度 生計困難者レスキュー事業報告

【1】事業の趣旨・目的

この事業は、社会福祉法人として目に見える形で公益活動を実践するため、地域の援護を必要とする方に対する相談活動を活発化し、関係機関との連携を十分に行い、相談活動を行う中で、援護を必要とする方の心理的不安の軽減を図り、また必要な制度、サービスにつなぐこととする。そして、生活保護等の既存制度では即応できない方で、経済的困窮により生活必需品や社会的サービスの利用が阻害されている方がいる場合、その費用等の全部または一部を現物により支援する経済的援助を行うことを目的とする。

【2】事業の特徴

- (1) 事業を実施する法人の施設にコミュニティソーシャルワーカー(CSW)を配置
- (2) 県・市の福祉事務所など公的機関や市町村社協、民児協等と連携し重層的な支援体制の構築を目指す
- (3) 対象者を限定せず、すべての生計困難者を対象とする
- (4) 施設に総合相談窓口を開設し、生計困難者の生活課題に対応する
- (5) 必要に応じて経済的援助をおこなう。現金給付ではなく、担当のCSWが買い物や支払に同行するなどして現物給付で行う

【3】レスキュー事業の実施状況

※令和3年3月31日現在

(1) 支援実施状況

1) 支援受付報告書提出	4 件		
2) 支援終了記録提出	4 件		
3) 基金支払請求	4 件	計	48,427円
4) 支援継続中	4 件		

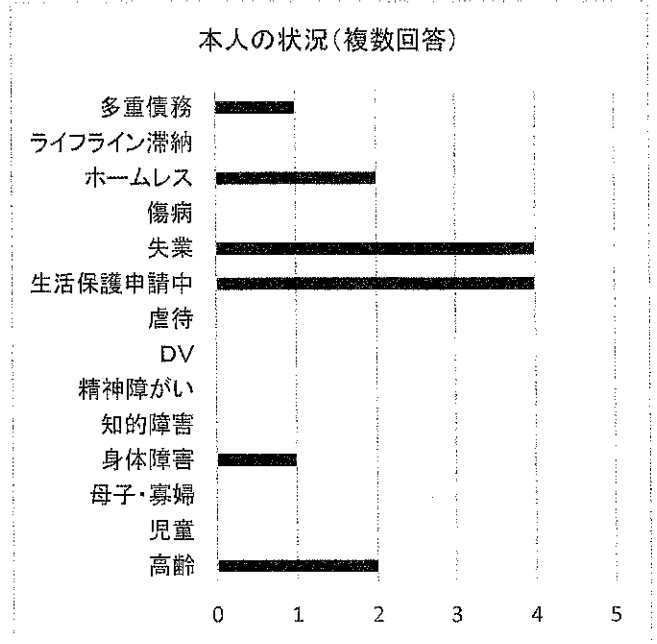
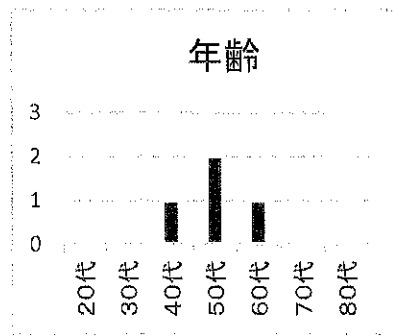
(2) 支援ケースの状況

月別相談 受付件数	
--------------	--

4月	1件
5月	0件
6月	0件
7月	0件
8月	0件
9月	0件
10月	0件
11月	1件
12月	0件
1月	0件
2月	2件
3月	0件
計	4件

対象者 男女別	
------------	--

男	4
女	0
計	4



対象者 平均年齢	平均 支援期間	平均 訪問回数	平均 同行支援回数	基金 支払総額	平均 基金支払額
58歳	10.5日	1.75回	1.75回	48,427円	12,107円

○ 生活困難者レスキュー事業に伴う相談者の現状と、これからの課題について

コロナ渦がもたらした経済的困難はこの国の弱い立場の人々に特に大きな打撃となりました。新型コロナウイルス感染症の影響で休業や失業状態などになり収入が減少し生活に困窮する方へ向けた国の措置として生活福祉資金の特例貸付・住居確保給付金が実施されています。その影響もあってか、例年に比べ生活困難者レスキュー事業の利用件数が大きく減少しています。しかしながら、実施された内容から住所不定で車上生活を送られ手持ち資金が底をついたケースが目立っています。住居を無くし一時生活支援を利用されその期間に生活保護の申請をされ自立に向けた生活を開始されています。本事業としての関わりとしてコロナ渦で面接などオンラインで行われていることから携帯電話が使用出来る様延滞料金の一ヶ月分を支払う支援、ハローワークに通う為のガソリン代の支援等を提供しています。

また、以前本事業を利用し生活を立て直した方が再び職を失い利用されるケースも過半数を占めています。支援として、相談支援と居住の場、働く場の組み合わせることの重要性が伺えます。相談内容はどれも複合的で課題が分かり易いケースは少ないと感じます。包括的な相談窓口が必要です。相談しやすい窓口として機能するために遊軍的なソーシャルワーカーが存在し課題が深刻になる前の解決に繋げていきたいと思えます。

自立訓練（生活訓練）事業 事業報告

【1】施設名

地域生活支援センターグリーン

【2】目的

知的障害または精神障害のある方に対して、障害者支援施設、障害福祉サービス事業所または障害のある方の居宅において、入浴、排せつ、食事等に関する自立した日常生活を営むために必要な訓練、生活等に関する相談および助言などの支援を目的とする。

【3】利用定員

10名（令和3年3月31日時 登録8名）

【4】職員配置

職名	職員配置	
	専任	兼務
管理者		1名
サービス管理責任者		1名
生活支援員	1名	
生活支援員（訪問兼務）	1名	

【5】利用期間

原則2年間（1年延長可）

【6】事業内容

（1）個別支援計画

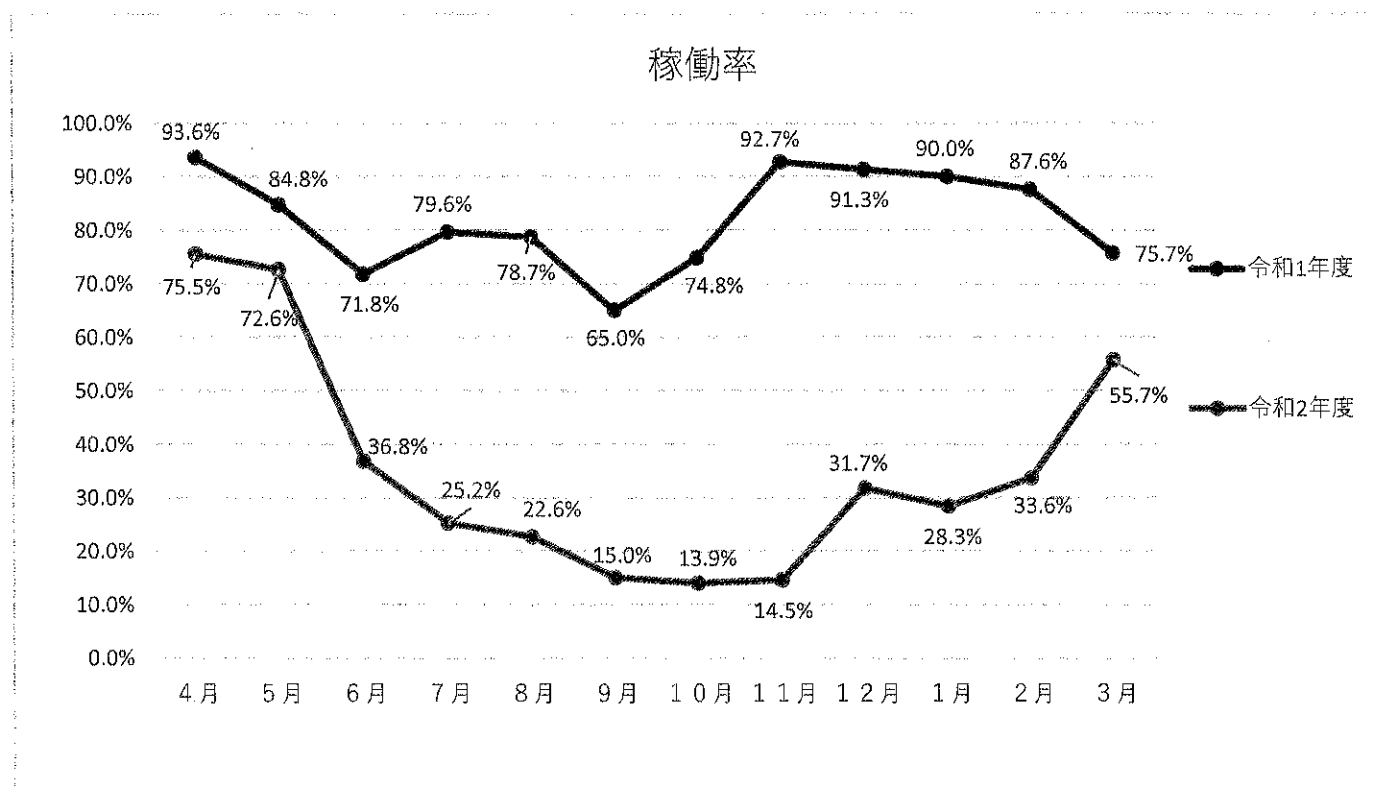
- ①本人の意向に沿った計画を個別に立てて実施する。
- ②個別支援計画に策定時には必ずサービス管理責任者を中心にサービス提供職員と担当者会議を開催し支援の方向性を共有する。
- ③一か月に一回モニタリングを行い個別支援計画が適正に遂行されているかを確認する。

（2）訓練プログラム

プログラム内容	計画	結果	主な活動内容
健康管理	144 回	106 回	スポーツ全般、バイタル測定
コミュニケーション	48 回	41 回	コミュニケーションゲーム、座談会、カラオケ等
調理・栄養管理	48 回	51 回	料理教室、栄養講座等
金銭管理	12 回	12 回	金銭出納帳の確認、次月の予算立て、買い物学習
社会資源活用	12 回	14 回	公共機関の利用、福祉サービスの利用について
就労支援	12 回	83 回	ファームিং、施設見学、就労体験、クリーン活動
文化・芸術	36 回	95 回	創作活動、書道、映画・音楽鑑賞
生活支援	12 回	35 回	生活ゼミ（衛生や日常生活）
個別支援	51 回	52 回	予定確認、振り返り、金銭計画、相談等
その他の行事・活動	12 回	12 回	グリーンフェスタ、スポーツ交流会等
合計	387 回	501 回	

【7】稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用回数	166	167	81	58	52	33	32	32	73	65	66	128
稼働日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23
稼働率	75.5%	72.6%	36.8%	25.2%	22.6%	15.0%	13.9%	14.5%	31.7%	28.3%	33.6%	55.7%



【8】令和2年度の振り返り

4月は9名でのスタートだったが、サービス終了や入院等により利用人数の減少が目立ち、稼働率が大幅に減少してしまった。また、体調の安定が難しく、毎日の来所が難しい方、休みが続く方が多かったことも稼働率が減少した原因の一つである。この状況を改善するためにも、令和3年度は第一に体調と生活リズムの安定を図ることを念頭に置いた支援を行っていきたい。コロナ禍において、計画していた行事を中止や縮小しなければならない事が多く、利用者の皆さんにとって息抜きや楽しみとなる活動が少なくなってしまった。その中で天草内のドライブや同法人の就労B型の見学など、可能な限り通常と変わらない活動が出来るよう工夫しながら取り組めたことで、身近な社会資源に着目できたように思う。今度もこの身近な資源を有効活用しながら利用者にとって有意義な活動となるようにしていきたい。

生活介護・通所介護事業 事業報告

【1】サービス内容

常に介護を必要とする方に対して、主に昼間において、入浴・排せつ・食事等の介護、調理・洗濯・掃除等の家事、生活等に関する相談・助言その他の必要な日常生活上の支援、創作的活動・生産活動の機会の提供のほか、身体機能や生活能力の向上のために必要な援助を行います。

【2】対象者

生活介護(障がい福祉サービス事業)

○地域や入所施設において、安定した生活を営むため、常時介護等の支援が必要な方で次に該当する方。

- (1) 障害支援区分が区分3(障害者支援施設等に入所する場合は区分4)以上の方
- (2) 年齢が50歳以上の場合は、障害支援区分が区分2(障害者支援施設等に入所する場合は区分3)以上の方
- (3) 生活介護と施設入所支援との利用の組み合わせを希望する者であって、障害支援区分が区分4(50歳以上の者は区分3)より低い方で、指定特定相談支援事業者によるサービス等利用計画案を作成する手続を経た上で、市町村により利用の組み合わせの必要性が認められた方

老人デイサービス(介護保険事業)

要介護認定を受けている65歳以上の方。

65歳以上の第一号被保険者と、40歳以上65歳未満の方で疾病(特定疾病)が原因で要介護認定を受けた第二号被保険者の方

○要介護1～5 ○要支援1～2

【3】施設概要

施設名称 地域生活支援センターグリーン
所在地 天草市佐伊津町401番5
定員 20名(令和3年3月31日時 登録18名)
管理者 長山 直仁

【4】運営方針

1. 利用者が自立した生活、又は社会生活を営むことができるよう、入浴、排泄及び食事の介護・創作活動の機会の提供・日常生活能力の維持、向上のための支援を行います。
2. 事業所の実施にあたっては地域との結びつきを重視し、市町村・他の福祉サービス等と密接な連携を図るよう努めます。

【5】事業目標

- ① 職員が一丸となり、達成感や自信を引き出せるよう支援を行う。
- ② 温かい心のこもった関わり、介護ができるように努める。
- ③ 利用者が安心して通所できるよう、常に安全で明るく清潔な環境を作り、職員と利用者が信頼し合える家庭的な環境づくりに努める。
- ④ 施設内での勉強会や各種研修等に参加し、知識、技術の向上に努め、自信と信頼をもちまた、統一した支援・質の高い支援ができるように努める。
- ⑤ 趣味やレクリエーション、創作活動等を通して日中活動の充実を図り、自分のもてる持てる強みが発揮できるように努める。
- ⑥ 利用者一人ひとりの生活・障がいの状態をよく理解した上で、利用者本人が自己決定できるよう利用者中心の支援を行う。

【6】活動内容

(1) 日中活動

活動内容	主な活動内容
健康管理	体重測定、散歩等、いきいき体操、くまモンヨガ、ベダル漕ぎ運動
創作活動	花、野菜作り、干し柿作り、壁飾り作り、貼り絵、ぬり絵、押し花等
趣味活動	園芸、山菜採り、書道、散歩、編み物、グランドゴルフ
社会資源活用	ショッピング、ドライブ
調理	料理教室(お弁当作り)、おやつ作り(誕生日会)
レクリエーション	ピクニック、カラオケ、茶話会、季節行事
個別支援	予定確認、金銭計画、常時相談等
その他の行事・活動	グリーンフェスタ

(2)年間行事報告

4月	お花見、グランドゴルフ、公園散歩	月例行事 ・誕生日会(随時) ・DVD鑑賞会(随時) ・カラオケ(随時) ・外出行事(随時)
5月	お菓子作り、グランドゴルフ、園芸作業	
6月	芋植え、スポーツ、避難訓練、ピザ作り	
7月	七夕、グランドゴルフ、茂木根海岸散歩	
8月	海岸ピクニック、ゼリー作り	
9月	グリーン&び〜すだけフェスタ、こころす見学	
10月	牛深ドライブ、公園ピクニック、芋ほり	
11月	紅葉見学、冬の壁飾り作り	
12月	クリスマス会、大掃除、忘年茶話会、干し柿づくり、焼き芋会	
1月	初詣、鏡開き、卓球大会、ペタンク、スカットボール	
2月	節分(豆まき)、女性利用者お菓子作り(バレンタインデー)	
3月	ひな祭り・男性お菓子作り(ホワイトデー)	

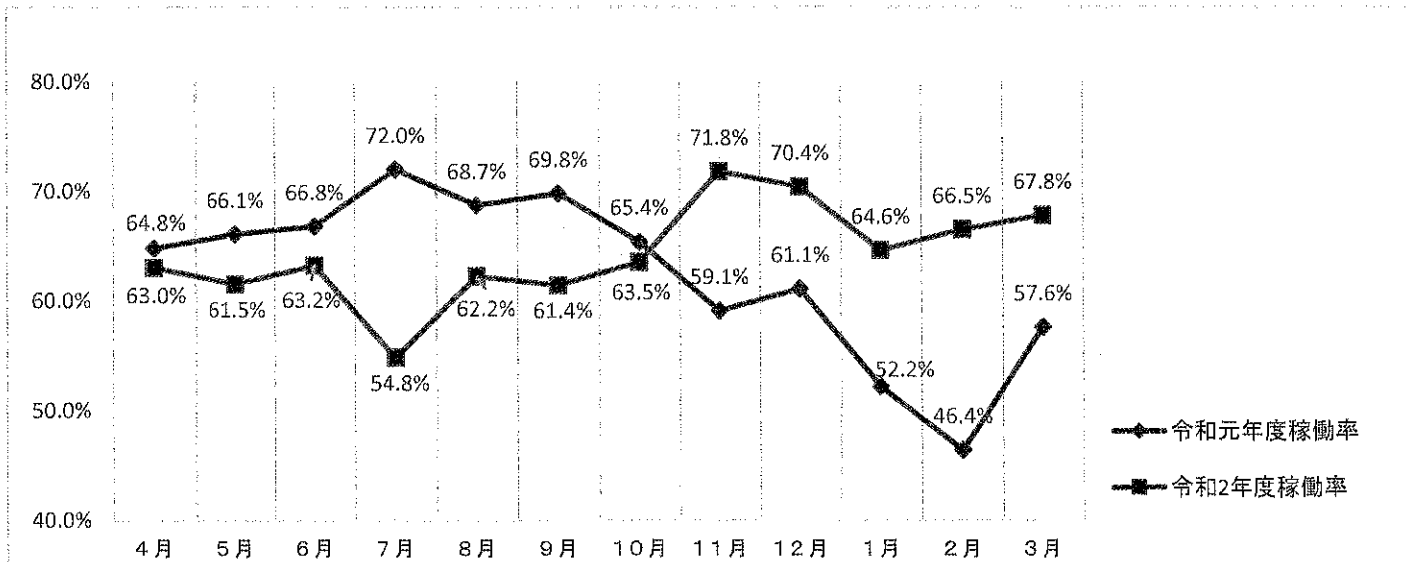
【7】利用者情報

年齢	21歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳～79歳	80歳～89歳
性別							
男性	0名	0名	0名	2名	4名	0名	0名
女性	0名	0名	0名	4名	6名	2名	0名

【8】稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用回数	277	283	278	252	286	270	292	316	324	297	266	312
稼働日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23
稼働率	63.0%	61.5%	63.2%	54.8%	62.2%	61.4%	63.5%	71.8%	70.4%	64.6%	66.5%	67.8%
登録者数	18	19	20	19	19	18	18	19	17	17	16	18

登録者数内訳												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
生活介護	12	13	14	13	13	13	13	14	13	13	12	13
通所介護	6	6	6	6	6	5	5	5	4	4	4	5



【9】令和2年度の振り返り

・昨年よりコロナ禍という状況で、今までのような生活が困難で新しい生活様式が求められる1年でした。生活介護事業では、徹底した感染症予防対策(提供場所のごまめな消毒、検温、手洗い、うがいの励行、マスクの着用等)を行い、利用者様に安心して通所してもらえるように努めました。また、温泉や飲食を伴う外出等のプログラムが実施しにくい状況で、代わりになるプログラムを考え、グランドゴルフや室内でできるスポーツ(スカットボール、ペタンク等)やお菓子作り等を取り入れることで、利用者様が気分不良やストレスがたまらないように支援してきました。

利用者様の体調や事情により、登録者数や稼働率に増減はあるものの稼働率63%→67.8%と目標数には達していないものの少しずつ上昇してきています。今後もグリーンティー等の広報誌等を活用しPRを行い、新規利用者の獲得をしていく必要性があると感じます。また、支援内容の幅を広げることから様々なケースに対応できるよう支援員もさらにスキルアップしていきたいと感じます。

就労継続支援B型

【1】施設の名称

就労サポートセンターぴ～す(平成25年5月1日開設)

【2】目的

障がいのある方が自立した日常生活または社会生活を営むことが出来るよう支援をする為、委託による農作業・訓練・創作活動・生産活動を行い、心のリフレッシュを図ると共に自らの自立心を向上できる為の支援を行います。このサービスを通じて生産活動や就労に必要な知識や能力が高まった方は、就労継続支援(A型)や一般就労への移行を目指します。

【3】利用対象となられる障がい者の方

就労移行支援事業等を利用したが一般企業等に結びつかない方や、一定年齢に達している方などであって、就労機会等を通じ、生産活動にかかる知識及び能力の向上や維持が期待される方

- ① 企業等や就労継続支援事業(A型)での就労経験があるものであって、年齢や体力の面で雇用される事が困難となった者
- ② 50歳に達している者または障害基礎年金1級受給者
- ③ ①及び②に該当しない者であって、就労移行支援事業者によるアセスメントにより就労面に係る課題等の把握が行われている者

【4】作業内容

(施設内)

- ・ハンドメイド商品の製造・販売
- ・ちゃんぽん梱包作業(有限会社 アツカコミュニケーションズ)

(施設外)

- ・除草(一般家屋周り・公園・公共施設等)、その他
- ・小川水産(ふぐの食品製造等)
- ・西岡勝次商店(雑節製造の選別作業等) R2.5. 31終了
- ・合同会社シーベジタブル(海苔の陸上養殖に付随する作業等) R2.7.開始
- ・社会福祉協議会(墓地清掃管理サービス業務) R3.3.31終了
- ・天草地域福祉施設製品販売促進における複合施設こころす喫茶ブースでの販売 R2.8.1開始

【5】利用定員

26名(令和3年3月31日時、登録27名)

【6】利用期間その他

利用期間の定めなし

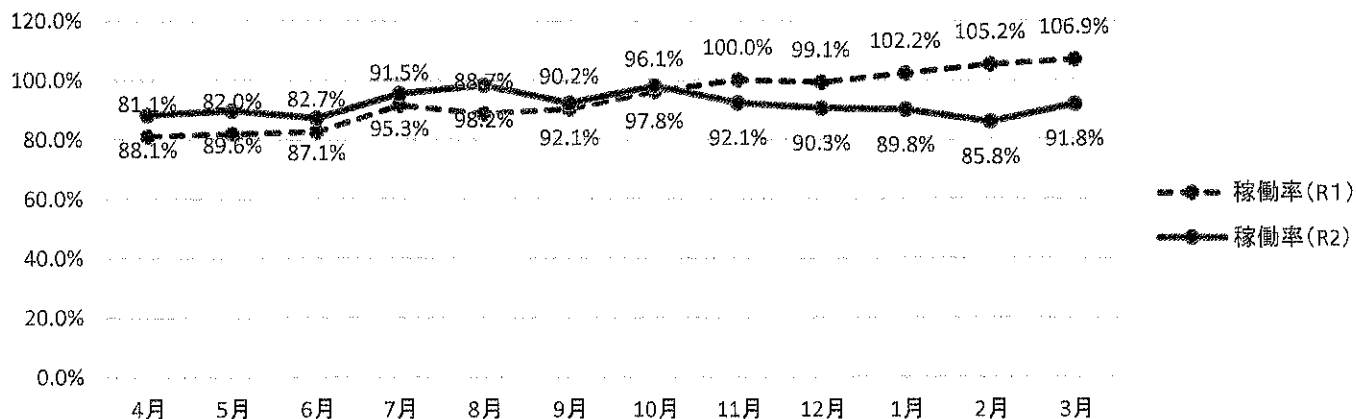
【7】販売会

期 日	販 売 会 名 称	販 売 場 所
令和2年6月19日	天草市役所販売会	天草市役所
令和2年7月21日	天草市役所販売会	天草市役所
令和2年9月18日	天草市役所販売会	天草市役所
令和2年10月20日	天草市役所販売会	天草市役所
令和2年11月20日	天草市役所販売会	天草市役所
令和2年12月22日	天草市役所販売会	天草市役所
令和3年2月19日	天草市役所販売会	天草市役所
令和3年3月19日	天草市役所販売会	天草市役所

【8】稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均稼働率
利用回数	504	536	498	570	587	527	585	527	540	537	446	549	
可能日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	
稼働率(R1)	81.1%	82.0%	82.7%	91.5%	88.7%	90.2%	96.1%	100.0%	99.1%	102.2%	105.2%	106.9%	93.8%
稼働率(R2)	88.1%	89.6%	87.1%	95.3%	98.2%	92.1%	97.8%	92.1%	90.3%	89.8%	85.8%	91.8%	91.5%

稼働率



【9】 月別売上

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	年間売上
売上	¥598,928	¥408,111	¥607,268	¥1,077,743	¥1,017,605	¥764,032	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	¥10,552,424
売上	¥950,768	¥932,962	¥1,484,379	¥969,691	¥887,969	¥852,968	

【10】 R2年度振り返り

昨年から世界的なコロナ禍が続き、今までのような生活が困難で新しい様式での生活が求められる中、大きく変化した年でした。

事業所としては利用者様に来所後の検温実施、手洗い、アルコールによる手指消毒の徹底を行いました。また、顔色や行動等の様子観察に加え、職員間での情報共有を密にすることで安心してサービスを利用できるよう実施しました。

利用稼働率においては、グラフ上においては下半期で昨年度の数値を下回ったことが伺えます。しかし、コロナ渦において更に寄り添った支援を提供したこと、継続通所を特化した支援をしたことで年間の平均稼働が維持出来たことは成果であると考えます。

利用状況は4月から新規の利用者が加わり、既存の利用者を含めると1日あたりの利用回数は前年度に比べ、平均して5名の利用が増えています。新規で加わった利用者様の就労定着が増加の要因と考えられます。

売上としては施設内作業にて3月～4月に布マスクの製造、販売。製麺では会社訪問やポスティングによる周知を早期に活動したことから、6月～8月お中元の需要、11月～12月お歳暮の需要にお応えすることで売り上げ増加に繋がったと考えられます。また、7月からは複合施設こころすにて天草地域福祉施設製品販売促進会の商品を喫茶ブースにて販売開始しております。アツカコミュニケーションズのちゃんぽん梱包作業は通年を通し安定した売上に加え、取次店としての営業収入も加わりました。施設外作業では7月からシーベジタブルにおいて青のりの製造等を開始しています。施設外作業を希望してチャレンジされる利用者が増え、着実にスキルの向上も見られることにより契約企業様から更なるマンパワーのニーズを期待されてます。企業先と向き合い、求められるニーズを模索しながら応えていくことで、利用者様の個性を活かした魅力ある就労の場と活躍する機会を提供するため一丸となり挑戦しました。

すべての利用者様が就労に参加する機会に繋がりを、その成果は数値として年間売上や工賃向上に反映していると思われま。利用者さんあつての支援事業であるため今年度も目的意識や協調性、就労意欲など精神面での支援。また、技術的な支援を行い、全体のモチベーションの維持とスキルアップを行っていくことを目標としたいと思ひます。

【11】 研修会等

参加研修等なし

【12】 商品取扱店

- ・とれたて市場(天草市瀬戸町)
- ・直売所わかみや(天草市五和町)
- ・天草市複合施設こころす(天草市浄南町)

介護サービス包括型共同生活援助事業 事業報告

【1】施設名

グリーントポス

【2】目的

指定共同生活援助の円滑な運営管理を図るとともに、利用者の意思及び人格を尊重して、常に当該利用者の立場に立った適切な指定共同生活援助の提供を確保することを目的とする。

【3】利用定員

10名（令和3年3月31日時 登録10名）令和2年度:退所者4名、新規利用者4名

【4】利用対象者

1. 一定程度の自活能力のある知的・精神障がい者の方
2. 通院医療を継続している精神障がい者の方
3. 日中に就労又は就労継続支援等のサービスを利用している知的・精神障がい者の方

【5】利用期間 定めなし

【6】事業内容

(1)個別支援計画

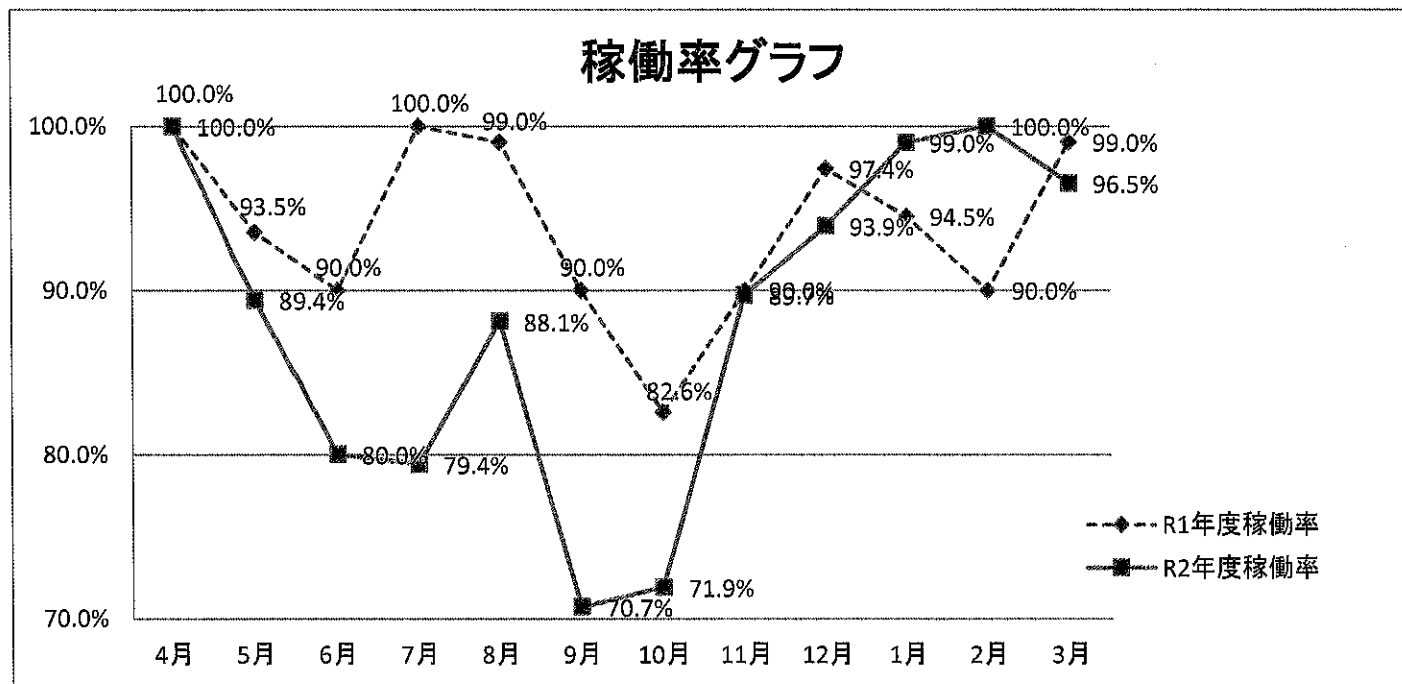
- ① 本人の意向に沿った計画を個別に立てて実施する。
- ② 個別支援計画策定時には必ずサービス管理責任者を中心にサービス提供職員とカンファレンス会議を開催し支援の方向性を共有する。
- ③ 3ヶ月に1回モニタリングを行い個別支援計画が適正に行われているかを確認する。

(2)支援内容

- ① 利用者に対する相談
利用者及び利用者及びその家族が希望する生活や利用者の心身の状況等を把握し、適切な相談、助言、援助等を行います。
- ② 食事の提供
世話人が栄養と各人の嗜好を考慮して、バラエティーに富んだ献立を工夫し、提供します。（食材料費及び食事に係る水道光熱費は対象外サービスです。）
- ③ 健康管理・金銭管理の援助
服薬管理（入居者又は入居者のご家族の希望により若しくは主治医の指示で服薬管理を行います。）
・事務所で預かり、服薬を行う時間に入居者の方に手渡し、服薬して頂く。
・生活費の管理方法や使途方法等について必要に応じて相談支援を行います。
- ④ 余暇活動の支援
地域商店への単独買い物等を支援し、自主性を育てるとともに、余暇活動として地域行事の情報を提供し、参加を促進します。
- ⑤ 緊急時の対応
サービス提供中に、利用者に病状の急変が生じた場合その他必要な場合は、速やかに主治の医師への連絡を行う等の必要な措置を講じるとともに、利用者が予め指定する連絡先にも連絡します。
- ⑥ 日中活動の場等との連絡・調整
日中、自立訓練事業やデイサービス等他のサービスを利用する場合、また職場に通勤する場合等に、必要に応じてサービス提供事業者や職場等と連絡・調整を行います。
- ⑦ 財産管理等の日常生活に必要な援助
食事、排泄、入浴、着替え、整容等について日常生活に必要な援助を行うとともに、財産管理に支援が必要な利用者について、成年後見制度の利用を促進するなど必要な援助を行います。
- ⑧ 夜間における支援
夜間において支援を行うものを配置し、就寝準備の確認、寝返りや排泄等の支援を行うとともに、緊急時の対応を行います。
- ⑨ 体験利用における支援
契約を希望されている方に、生活上の不安の解消等を目的として、正式な契約締結前に「体験利用」として支援を行います。
- ⑩ その他
上記に附帯するその他必要な介護、支援、家事、相談、助言を行います。

【7】稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
登録者数	10	10	10	10	10	9	9	10	10	10	10	10	
利用日数	300	277	240	246	273	212	223	269	291	307	280	299	
稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	
稼働率	100.0%	89.4%	80.0%	79.4%	88.1%	70.7%	71.9%	89.7%	93.9%	99.0%	100.0%	96.5%	88.2%



【8】入居者情報

性別	18歳～20歳	21歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳～79歳
男性	0名	1名	1名	0名	4名	2名	0名
女性	0名	0名	0名	0名	0名	1名	1名

【9】日中福祉サービス利用状況

施設名称 事業名称	地域生活支援センターグリーン			就労サポートセンターび～す		その他
	生活介護	通所介護	生活訓練	就労継続支援B型		
男性	3名	1名	0名	4名		0名
女性	1名	1名	0名	0名		0名
合計	4名	2名	0名	4名		0名

【10】会議及び研修

- 1、天草地域自立支援協議会
- 2、グループホーム職員会議
4月27日(月)、5月26日(火)、6月26日(金)、7月27日(月)、8月26日(水)、9月24日(木)
10月26日(月)、11月26日(木)、12月24日(木)、1月26日(火)、2月26日(金)、3月26日(金)
- 3、全体会議
4月1日(水)、5月1日(金)、6月1日(月)、7月1日(水)、8月3日(月)、9月1日(火)
10月1日(木)、11月2日(月)、12月1日(火)、1月4日(月)、2月1日(月)、3月1日(月)
- 4、利用者会議:随時

【11】令和2年度の振り返り

昨年は、コロナ感染拡大防止の観点から外出制限や面会制限を行った。入居者にとっては日曜や祝日に自由な行動ができず、精神面での不安定があり入院になった入居者がいた。さらに、入院が長期になりグループホーム退所になった方が2名いた。
グループホーム行事等は対内行事であるため、年間を通して順調に行えた。誕生日会や季節行事などは、パターン化しないように都度工夫を行った。